

# わたしたちの 働きかた 2018

働き方改革通信  
平成30年11月5日

発行：長野県教育委員会  
(義務教育課)

## 時短、その先へ 教頭先生のマネジメント

大北地区のある中学校では、「早く帰ることが目的ではない」として、「計画的に、効率的に業務を進める意識と習慣づけ」を学校の働き方改革の目標にして取り組んでいます。

### 前週から掲示し、本当に退勤

先生方の働き方マネジメントを指導されている教頭先生は、職員室の黒板に右のようなプラカードを掲示し、啓発しています。

決めただけになりがちな定時退勤日。でも、この学校では毎回実現しています。このプラカードは前の週から掲示されるため、先生方が数日前から計画的に進めようという意識を生みます。会議や行事等が立て込んでいない日を厳選して設定するため、少しの心がけでできる成功体験が積み上げられます。「この日は、初任の先生と飲む日なんです」と教頭先生。「本当に完全退勤日」と記された辺りにも、教頭先生の熱い意志を感じました。



### マーカーの入った個票

月初めには、前月の出退勤時刻が一覧表になったタイムカード個別集計票が先生方一人一人に配られます。実物を見せていただいたところ、時間外勤務が連続していたり、夜8時を超えて勤務していた日などにマーカーが引かれていたりします。実はこれ、教頭先生が全教職員分やっているのだそうです。「だれがどのくらい時間外勤務しているのか分かるし、声もかけやすくなる」というメリットがあるとのこと。

先生方は、こうした教頭先生からのメッセージを毎月受け取りながら、各自がその月の目標時間を記入しています。

### 机上整理ウィーク

教頭先生はさらに、机上整理を推奨しています。ワークスペースを増やすだけでなく、ファイリング、ボックス管理のスキルを身に付けることなど、先生方自身が自分の働き方をマネジメントするよう促されているのです。



これがうまくいっている秘密の一つに、「なぜ、早く帰るのか」つまり「時短の、その先」を共通理解している点が挙げられます。この中学校では、

- 限られた時間内で仕事が終われるようになることが、自分のスキル・アップになること
- 早く帰った、その先で、十分な睡眠とか家族と過ごしたり趣味に費やしたりする時間とか、ワーク・ライフ・バランスが保てること
- そうした働き方が「質の高い授業」につながる

を、みんなで共有しています。…だから、できる。